



世界に共生を——目次

1	縁起	1
2	共生(きょうせい)	7
3	共生(ともいき)	11
4	「ともいき」からはじまる	19



1 縁 起

机の上に置かれた一つのリンゴ。

「ここに一つのリンゴがあります。あなたは、このリンゴから何が見えますか。見えるものすべてを書きなさい」

これは、アメリカのある大学で仏教を学んでいる学生に出された試験問題です。

あなたも考えてみてください。

おも 思い描いてみてください。

何が見えますか。

「美味おいしそう！ よたれが出てきた」って？ それは条件反射というものです。そういうことではなく、この問題は、そのリンゴが、今、ここにあるためには、どのようなことが関わっているのか考えてください、とい

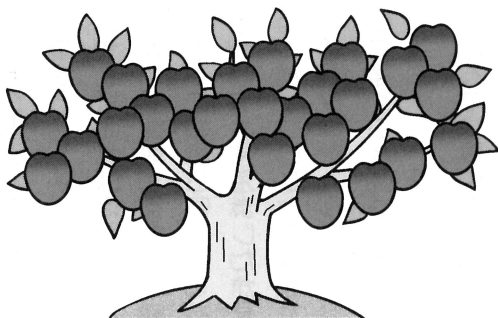
うことなのです。

どうですか？ では、一緒に見てみましょう。

まず、リンゴがあるためには、そのリンゴが実るための木が必要です。たわわに実ったリンゴの木。見えますよね。リンゴ畑でもいいし、丘の上の一本のリンゴの木でもいいでしょう。このリンゴの木がなければ実は結びません。では、そのリンゴの木は？ 植樹されたのでしょうか、それとも種から芽が出て育ってきたのでしょうか。いずれにしても種が必要です。種が見えますか。リンゴをかじっていくと芯のところに何粒かの種がついていますよね。口にふくんでフツと飛ばしたことがある人もいるんじゃないありませんか。

こう考えてくれば、まだまだたくさん見ることができはります。

種から芽を出した木が育っていくためには水が必要です。太陽の光も必要です。それから適度な温度、風、もちろん土……。いわゆる草木が育つ



自然環境が必要ということですね。

これでなんとかリンゴの木は育つでしょう。しかし、これだけでは、まだまだその実は食べられません。実を食べられるようにするためには、その木にいろいろな世話をしなくてはなりません。枝の剪定^{せんてい}、害虫の駆除^{くじょ}、実に袋をかけたリ……。いろいろなありますよね。人の手が必要になってくるわけです。これも見えますか？

いやいや、こればかりではリンゴは机の上には乗りません。こんどは実ったリンゴを収穫する人、それを運ぶ人、また、車や船・飛行機など運搬するものも必要です。

それからさらに、その運ばれたリンゴを売る人、そして買う人、それを机の上まで運ぶ人。こうしてはじめてリンゴは机の上に乗ることができるわけです。

いや、考えればほかにもあるでしょう。運搬する時の燃料、それを採取する人や、採取するための機械、それを作る人……。まだまだたくさんありますが、このくらいにしておきましょうか。

どうです、見えましたか？

たった一つのリンゴが私たちの目の前に来るまで、これほど多くのことがら関わっているのです。これらのどれ一つ欠けても、リンゴが私たちの所に届くことはありません。

ところで、冒頭の小見出しに「縁起^{えんぎ}」と題がつけられていましたね。このリンゴの話と仏教語である「縁起」とどんな関係があるのかな、なんて